



ホーム>世界>南アジア・インド オリッサ州 プログラム内容

一緒に歩もう!一緒に変わろう!「立ち上がった世界の人々」の21世紀の夢を応援しよう!

プログラム内容

報告1
2011年2月

報告2
2011年12月

報告3
2012年2月

報告4
2012年7月

報告5
2012年後期



人と社会のトータルな変革プログラム

南アジア・インド オリッサ州

インド中東部・オリッサ州のカラハンディ、ヌアパダ郡の背景



2010年10月に日本とインドの経済連携強化のための協定EPAが調印され、昨年の2011年8月からこの協定がよいよ、始動した。今年2012年には、毎年の高い経済成長が確実視されるインドの動向は、アジアでは中国に続いて日本のニュースの常連になっている。8年後の2020年には、人口の半数近く6億2千万人が中間層になるという予測は、輸出主導の経済パターンを維持し続けたい日本にとって、インドがとても魅力的な新しい経済パートナーであることを約束している。一方、インドの最貧困層を形成するのは、不可触民といわれてきたダリット(抑圧された人々)を中心に現在3億人強といわれ、貧困層も含めるとインド人口の9億人近くは、今でも経済成長の恩恵とは程遠い生活を強いられている。彼らの8年後はどのようなのだろうか。劇的に増える中間層からはじきとばされた5-6億人の一人となり、もっと過酷でみじめな暮らしを強いられることになるのではないだろうか。

このインドの最貧困地区の一つがインド中東部のオリッサ州カラハンディ郡と隣接するヌアパダ郡である。19世紀から1980年代まで10年に1回近くの割合で、旱魃が発生し貧困に苦しんでいた。加えて、近年まで法律に疎かった貧しい農民は都会に暮らす地主たちや事業家たちから搾取されるままになっていた。2000年代に入ると周辺の郡や都市部では、次々に政府や自治体の開発の計画が遂行されたが、これらの郡では計画倒れが続き、周辺から取り残されていった。カラハンディ郡は、2008年には社会経済開発指標上では、インドで最も遅れた5つの郡のひとつに選ばれるまでになってしまった。

NGOエベネゼルを立ち上げた、からし種エージェント・ナヤクさんの大きな夢

この地域で長年にわたって、個人として、社会の底辺の人々、困難に直面し途方にくれた人々に心を痛め、この人々に隣人となろうとさまざまな力を尽くしてきた女性がナヤクさんだ。なんとか地域の人々の生活が変えられたら、という変わらぬ思いを持ち続けていた。そして、その経験を生かし2年ほど前にNGOエベネゼルを立ち上げることになった。

彼女の大きな夢は、地域の人と社会がトータルに変革されることだ。貧しいうえに尊厳を剥奪されて希望もなく生きてきた人々が、とても大切な存在として生かされていることを知る出会いをし、基本的な健康が守られ、自分たちの最善が生かされるように学び続けることができるように。

彼らが、家族と村の皆のために資源を適切に管理して使い、協力し合う関係を築きあげて必要が満たされるように。そして、近隣を始めもっと広い地域の人たちの必要に応えるために、自分を出し切って輝いて生きる人で満



ちる社会を築いていくことだ。

ナヤクさんたちの2015年の夢

そこで、エベネゼルのの人たちと、カラハンディ郡、ヌアパダ郡の最貧困の1000家族以上の間で、5年後には次のような変化が起きていることを夢見て、ナヤクさんは献身的に働き始めた。

- 20の村で、今まで自分たちを抑圧してきた教えから解放され、自分たちを生かしてくれる真実の神をほめたたえる集まりが開催されている
- これらの村には、人と社会のトータルな変革を心から願い、献身的に人の必要のために働くリーダーが2人以上いる
- それぞれの村で、放課後、子どものケアと補習支援クラブが活動している
- 最貧困家庭の200人ほどの子どもたちが、小学校を修了することができるようになる。
- それぞれの村で、女性たちの自助グループが活動するようになる。
- 最貧困の地区が、自治体の援助制度と連携できるようになる。

上の写真は、オリッサ州カンダマール地区で2008年に起きたキリスト教徒の弾圧事件の際に家に襲撃され火をつけられたニコデモ牧師家族。ナヤクさんが立ち上げたNGOエベネゼルは、襲撃された牧師とその家族たちへの援助と救済を目的に発足した。



写真は、カンダマール地区の襲撃されたキリスト者をナヤク夫妻が励ましのために訪問したときの様子。

2012年の目標

- 2つの最貧困の人が集まる村で、70人の子どもたちが小学校教育を受けることと、自分たちがいのちを与えられている意味を学ぶこと
- 3つの村で、今まで自分たちを抑圧してきた教えから解放され、自分たちを生かしてくれる真実の神をほめたたえる集まりへ
- 2つの最貧困の村で6つの女性自助グループが活動し、家計が向上するような職業訓練に取り組む

<日本人の私たちがナヤクさんの夢の実現の支援者・支援グループになると・・・>



ナヤクさんと孫

- 3か月ごとに伝えられる現場活動の進捗状況や近況報告・写真がホームページで更新されると、パートナーになった方々にメールで連絡を差し上げますのでホーム・ページでご確認ください。インターネット操作が難しい方は、郵送で連絡を差し上げます。

こうして、現地の人たちの喜びや苦闘を身近に感じることができます。また、その苦闘から考え出されていること、生み出されている新たな試みから、パートナーの私たちが身の回りの課題へのヒントを得、勇気を受け取ることができます。

- 近況報告を読み、励ましや質問を伝えたい場合は、現地の方たちへその内容を翻訳の上、お届けすることができます。また、現地からの応答を翻訳してお伝えします。

- 年1回、プログラムの年間報告とこの一年で大きく成長した方々の喜びの声の原文コピーをメールまたは手紙(翻訳済み)でお送りします。
- さらに現地を深く知り学びたい方のために、およそ3年に1度短期現地訪問ツアーを開催します。
- <ところを合わせて祈りでも応援されたい方々へ>
3か月ごとにニュース・レターで、ところを合わせていただきたい事柄と今までに伝えられた出来事をお知らせします。緊急の場合は、メール配信で随時、お知らせいたします。

世界が深い愛と目的によって導かれていることを信じた祈りの貴さと応えてくださる方の素晴らしさを、多くの方々と共に経験することが可能です。

私たちが知らなかった彼らの報告から自分なりに気づかされたこと、教えられたことを伝えたら、自分は取るに足りないといつも感じている彼らにとって、どれほど大きな励ましになることでしょうか。また、もっと教えて欲しいことを素朴に質問すれば、いつもは会えなくても私たちが深い関心を持ち彼らの最善を祈り願っていることが伝わるでしょう。質問、コメントの内容によって、現地のふさわしい方が応答します。

<支援の方法>

彼女たちの夢を実現するための年間に必要とされる「からし種」となる資金は、2012年度45万円です。(現地視察訪問などの間接事業費分5万円を含む)

ご賛同のかたは、郵便振替で通信欄に、「ナヤク指定」または、「インド・オリッサ支援」と指定し、下記の口座に送金ください。

郵便振替

口座名:FVI口座番号:00180-0-300201

郵便振替通信欄にメールアドレスをご記入いただきますと、以降、メールでご報告をいたします。

お問い合わせ

プログラム内容 [報告1](#) [報告2](#) [報告3](#) [報告4](#) [報告5](#)

[Page Top](#)

[Share](#) |

[ホーム](#) [活動内容](#) [FVIの特徴](#) [参加する](#) [寄付・献金](#) [お問い合わせ](#)

Copyright(c) Friends with the voiceless International All Right Reserved

